

## 命の尊さを伝える本(平成27年)

### 12月の推薦本

・「チャーリー・フラウンなぜなんだいーともだちがおもい病気になったときー」 著:チャールズ M. シュルツ 訳:細谷亮太(岩崎書店)

おすすめコメント:重い病気でつらい思いをしている子どもの気持ちをわかってあげることの大切さを、子どもたちに説いた本。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、南図書館

・「てつぞうはね」 著:ミロコマチコ(東京 フロンズ新社)

おすすめコメント:愛猫・てつぞうとの大切な日々をつづった、魂のこもった絵本。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、西図書館

### 11月の推薦本

・「夏の庭」 著:湯本香樹美(新潮社)

おすすめコメント:死ぬとはどういうことか。死を通して生きることの輝きを考えられる本です。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、南図書館

・「おじいちゃんがおぼけになったわけ」 著:キム・フォックス・オーカソン 画:エヴァ・エリクソン 訳:菱木晃子(あすなろ書房)

おすすめコメント:身近な人の死をユーモアを交えて描かれていて、小さな子へ死を話すきっかけにできる本です。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

### 10月の推薦本

・「やさしさとおもいやり」 作絵:宮西達也(東京 ポプラ社)

おすすめコメント:赤い実の木と2匹の恐竜の優しさ、木がなくなった後新しく芽生えた命に、心がぽっと温まります。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「さよならチワオ」 作:なりゆきわかこ 絵:津金愛子(東京 ポプラ社)

おすすめコメント:家に犬が来たときから看とるまで、家族の皆が協力し、楽しいことや悲しいこと、絆が深まることはペットからの贈り物だと思います。

平塚市の図書館に蔵書しています。北、西、南図書館

### 9月の推薦本

・「あおい木」 作:中村牧江 絵:林健造(ひさかたチャイルド)

おすすめコメント:たった一人で深い森に入っていた「ぼく」が見たものは…。

一本のあおい木に導かれて、別の世界へ入り込んでいく「ぼく」。その幻想的な体験を通して成長する心を描く。

平塚市の図書館に蔵書しています。西、南図書館

・「モーツァルトはおことわり」 作:テマイケル・モーパゴ 絵:マイケル・フォアマン 訳:さくまゆみこ(東京 岩崎書店)

おすすめコメント:世界的バイオリニスト、パウロは決してモーツァルトを演奏しない。その理由は、ナチス強制収容所の悲劇と繋がっていた。

音楽を武器に戦争を生き抜いた人々を描く。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、西図書館

## 8月の推薦本

・「ほうさまになったからす」 文:松谷みよ子 絵:司修(偕成社)

おすすめコメント:戦争が起こり、村の男たちは南の島で次々に死んでいった。ある日、村にたくさんいたからすが消えた。からすはどこへ行ったのか。

松谷みよ子さんが集めた現代の民話。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「六にんの男たち－なぜ戦争をするのか－」 著:テイビット・マッキー 訳:中村浩三(偕成社)

おすすめコメント:平和を求めながらも私有財産を持つようになると疑心暗鬼になり、戦いを繰り返す人間たちの愚かな姿を、独特のタッチの線画で描いている。

平塚市の図書館に蔵書しています。北、西、南図書館

## 7月の推薦本

・「かみさまからのおくいもの」 著:ひぐちみちこ(こぐま社)

おすすめコメント:神様から生まれてくる赤ちゃんに「それぞれの個性」が贈られます。

誰が一番ではなくて、みんな素敵なんだよというメッセージに心がほっこりします。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「わすれられないおくいもの」 著:スーザン・バーレイ 訳:小川仁央(評論社)

おすすめコメント:自分は周りの人に何を残していけるだろうか…。

日々を生きていくことの大切さを教えてくれる優しさのつまった心温まる一冊です。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

## 6月の推薦本

・「ちょっとだけまいご」 作:クリス・ホートン 訳:木坂涼(神戸 BL 出版)

おすすめコメント:お昼寝中にうっかり木から落ちたちびフクロウがママを探して泣いていると、森の仲間が次々助けに来てくれます。

でもね、よくページの中を探すと…「ちょっとだけ」の意味がわかりますよ。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「オオカミがとびひ」 著:ミロコマチコ(東京 イースト・プレス)

おすすめコメント:絵本の中の「ぼく」のまわりは、天気も時間も、力強く生命力にあふれた動物でできている。面白くて迫力ある絵本です。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西図書館

## 5月の推薦本

・「もっとおおきなたいほうを」 作:二見正直(東京 福音館書店)

おすすめコメント:王様が、狐と大砲の大きさを競ううち、へんてこりんな大砲が次々できて…。とぼけた狐とマヌケな王様達。争うことの愚かさをユーモラスにうたえます。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「かわいいこといさん」 作:クリスチャン・アールセン 訳:石津ちひろ(東京 光村教育図書)

おすすめコメント:老夫婦と孫の庭の木とそこにあつまることいたちを介した心のつながりがあたたかくやさしく描かれています。

平塚市の図書館に蔵書しています。南図書館

## 4月の推薦本

・「いちにちでいいから」 作:ローラ・ルーク 絵:マルク・フタヴァン 訳:福本友美子(東京 フレーベル館)

おすすめコメント:いちにちだけ、なんにでもなれるなら…考えるとワクワクする!でも、最後のしかけで納得。Happy!

平塚市の図書館に蔵書しています。北、南図書館

・「おばあちゃんがおばあちゃんになった日」 作:長野ヒネ子(東京 童心社)

おすすめコメント:家族がそれぞれ愛情をもってつながりを持ち合う。みんな元気に笑顔いっぱい! 「こどもはみんなのたから。こどもはみんなのきぼう。」

平塚市の図書館に蔵書しています。北図書館

## 3月の推薦本

・「ワニのライルがやってきた(ワニのライルのおはなし)」 著:バーナード・ウェーバー 訳:小杉佐恵子(大日本図書)

おすすめコメント:フリムさん一家が引っ越してきた家には、トルコ産のキャビアしか食べないワニがいた!

初めは驚いたフリムさん一家だったが、気のいいワニのライルは家族同様に。ところが前の飼い主が突然戻ってきて…。

フリムさんとライルの強い結びつきに心があたたかくなります。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、南図書館

・「おくいものはナンニモナイ」 著:パトリック・マクドネル 訳:谷川俊太郎(あすなろ書房)

おすすめコメント:ありとあらゆるものをもっている私たちの生活。何でももってる友だちに喜んでもらえる贈り物

ってなんだろう？

だいじなことに気づかせてくれるあたたかい絵本です。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、西、南図書館

## 2月の推薦本

・「ゆきのともしち」 著：イアン・ホワイズロウ 画：ティファニー・ピーク 訳：木坂涼(理論社)

おすすめコメント：こぶたのピッグは本が好き。本の中のことばを探して世界が変わるよ。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、西、南図書館

・「かないくん」 作：谷川俊太郎 絵：松本大洋(東京 東京糸井重里事務所)

おすすめコメント：私の中にかないくんとおじいちゃんが生きている。うつくしい絵と時空を超える体験が心に響きます。

平塚市の図書館に蔵書しています。西、南図書館

## 1月の推薦本

・「あさになったのでまどをあけますよ」 著：荒井良二(東京 偕成社)

おすすめコメント：自然豊かな山里、ビルの林立する都会の町、静かな海辺の町…。

様々な町の風景が見開きいっぱいに美しく描かれています。あなたの心に残る〈きみのまち〉に、乾杯！

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西、南図書館

・「ふたつのねがいーふゆのおとぎばなしー」 作：ハルメン・ファン・ストラーテン 訳：野坂悦子(東京 光村教育図書)

おすすめコメント：ガラス玉の中の孤独な雪だるまに起こった、冬の夜の小さな奇跡。

平塚市の図書館に蔵書しています。中央、北、西図書館